

団体名・野付半島・野付湾及び流入河川の環境保全ネットワーク（別海町）

事業名：野付半島・野付湾及び流入河川における環境保全及び普及啓発事業

事業概要：海辺のゴミ拾いで海水汚染を改善し、流入河川のザリガニ防除で生物多様性の回復を図る。流域周辺の住民や子どもたちに、講演や自然観察などを通して普及啓発を行う。上流部住民に産業環境の改善をPRし、観光客らにも解説看板で水環境保全に理解を得る。また、パンフレットやイベントなどで、活動の成果を報告する。

野付半島・野付湾及び流入河川における環境保全ネットワークでは、北海道 e-水プロジェクト助成金で、野付半島・野付湾及び流入河川・流入域で、環境保全や普及啓発活動に取り組み、野生生物の保護、及び水産振興を図ることを目的とし、環境保全活動、環境教育、普及啓発活動を実施しました。

環境保全事業では、水質の悪化、生態系の破壊を防ぐため、5月・10月に野付湾でのゴミ拾い、6月～10月に流入河川での外来種防除を実施。計364匹のウチダザリガニを捕獲することができました。さらに、10月には流入域最上流部で約100名が参加し、2000本のヤナギの木を植樹しました。

環境教育事業は5月～11月にかけて実施しました。近隣小中学生に地元の自然環境を知ってもらうため、海域と陸域の自然観察や出前講座を行いました。内陸部の学校児童はもちろん、海岸部の児童からも「身近にこんな自然があり、こんな生き物が棲んでいたなんて知らなかった」という声が多くあがりました。出前講座では、ミニゲームなどを交えながら、野付の自然と、生き物、森・海・川のつながりを紹介しました。こちらも「知らなかった」「今度、半島に行ってみたい」という感想を多くもらいました。10月には野付漁協の市場・加工場見学を行い、水揚げから加工・販売までの流れを学習しました。

普及啓発事業では8月10日にアザラシ観察会を開催し、一般市民23名が参加。条件の悪い中、初めて見るゴマフアザラシを熱心に観察しました。8月～10月にかけては伝馬船ウォッチングで水鳥の姿や湾内に繁茂するアマモの様子を低い目線で観察しました。特に10月のウォッチングでは打瀬舟での北海しまえび漁を見学し、漁師さんにお話を伺うこともできました。7月からは野付湾の代表的な生き物とそのつながりが分かる解説看板作製を開始しました。野付小学校児童がイラストを描き、野付漁協に監修してもらった野付ならではの解説看板を11月に設置することができました。さらにこの解説図の他に本ネットワークの活動や野付湾の特徴を記載したパンフレットも作成しました。10月31日には、上流部である中標津町でアマモの講演会を開催し、約30名が豊かな野付湾を支えるアマモと河川との関係を学びました。

その他、11月10日にラムサール条約記念イベント音楽と語りを開催。音楽を楽しみ、野付の不思議な地形の成り立ちについて学びました。地元の野付小学校では郷土の自然と産業を学ぶ「のつけ学」に取り組んでいます。毎年テキストを改訂し、今年も新しいものを作成しました。

今回は野付漁業協同組合、別海町立野付小学校、野付半島ネイチャークラブ、野付半島ネイチャーセンターで構成したネットワーク団体での活動でしたが、十分に連携できたとは言い難い活動となってしまいました。今回の活動を期に、関係団体でさらに親睦を深め、より継続的な、陸域・海域の環境保全、普及啓発活動に取り組んで行きたいと思っております。



海岸清掃



植樹活動：ヤナギの木 2000 本を挿木した



伝馬船ウォッチング



環境ガイド



アマモ講演会



パンフレット作成